

あの映画が

“Impossible Mission”

ではない理由。(全6題・47p)

～ さまざまな言葉の「含み」を知って

英語のクオリティを高めよう ～

【 シリーズ 第2編 】



【登録中の配信スタンド】

メルぞう

<http://mailzou.com/get.php?R=25598>

無料情報ドットコム

<http://www.muryoj.com/get.php?R=8623>

まぐぞう

http://mag-zou.com/report_get.php?id=m1000017219_3

【編集者情報】

編集者： えいいち

the_lake_poets@yahoo.co.jp

メールマガジン：

珠玉の「ワンポイント・イングリッシュ」－京都から

<http://www.mag2.com/m/0000269406.html>

目 次

● はじめに	3
■ あの映画が "Impossible Mission" ではない理由。	5
■ 「～から始まる」= start from と言える時、言えない時。 .	10
■ I'm loving you. が正しいわけ。	16
■ 「愛想がよい」をめぐる表現	24
■ 「甘え」= amae! ホント?	31
■ 「白い象」を賜ったら、たしかに・・	39
● おわりに.....	47

● はじめに

こんにちは。えいいち と申します。

この無料レポートを手にとって下さり、ありがとうございます。

◇ ◇ ◇

この無料レポートでは、英語のいくつかの言葉・表現について、
言葉の持つ「含み」を、ワンポイントでご紹介していきます。
なにかひとつ、あなたの英語にとって、収穫があると思いますよ。
シリーズ 第2編 になります。

この無料レポートは、私の発行するメールマガジンから、
バックナンバーをそのまま掲載しています。

珠玉の「ワンポイント・イングリッシュ」－京都から

<http://www.mag2.com/m/0000269406.html>

(無料・購読解除も自由にできます)

このマガジン、少し趣向が変わっているんです。

・・・京都地域だけで放送されているラジオの番組に、
「ワンポイント・イングリッシュ」のコーナーがあるんですが、
これが、秀逸なんですね！ 鮮やかな手さばきで、
言葉の持つ「含み」「エッセンス」といったものが、直送されてきます。
このメールマガジンは、番組愛聴者の私が、放送の雰囲気も含めて
作成した備忘録なんです。

放送局は、京都のFM局、αステーション。

DJは、佐藤 弘樹 さんです。

http://fm-kyoto.jp/djprofile/profile/hiroki_sato/index.shtml

渋い声、思想が薫る、gentleman という表現びったりの方です。

■ 注意事項

この内容は、個人が備忘録として記録したものです。
公式のものではありません。

従って、十分に注意しているつもりではありますが、
万一、その内容に誤りがあった場合、その責は編集者である私にあります。

私は、佐藤弘樹さんやαステーションが大好きで、
なるべく放送の雰囲気もお伝えしたいという気持ちがありまして、
基本的に、放送の言葉に忠実に書き起こしています。

すこし読みにくい感じがするかもしれませんが、
その意図をお汲みいただき、ご容赦願います。

■ あの映画が "Impossible Mission" ではない理由。

さて、昨日はちょっとややこしい話で、
「形容詞」と「名詞」なんてお話をしました。

「形容詞」と「名詞」なのか。

「名詞」と「形容詞」なのか。

そういう順番の違いをご紹介しましたよね。

flying birds

birds flying

この2つをご紹介したかと思います。

flying birds で「飛ぶ鳥」

birds flying で「飛んでいる鳥」

ま、つまり

flying birds というのは「一般例」であって、

birds flying というと「具体的、個別的」

になるというお話でした。

例えば、

something とか **someone** がつくと、

形容詞は後ろになりますよね。

happy something って言わないですもんね。

something happy って言いますでしょ。

happy someone とも言わないです。

someone happy と、こう言いますよね。

これは何故かという、そうですね、
「なにか」とか「誰か」とか、
より個別的、より具体的なことを言ってる訳ですから、
形容詞は、後ろから来るんです。

で、そのことを踏まえて考えると、
例えば、
「可能な最善の手当」って言うような場合。

the best possible attention なのか、
the best attention possible なのか。

今ご紹介した通りで、
possible の位置によって、
その意味が変わります。

the best possible attention と言えば、
一般的な言い方ですから
「最善の可能な手当」
こういう意味です。

the best attention possible と言うと、
より限定的、より具体的ですので、
「その状況において出来る限りの可能な最善の手当」
ということになります。

ですから、あの、
テレビドラマで流行って、映画にもなって、続編も作られた、あの
Mission Impossible.

あれは、

impossible mission ではなくて、
mission impossible になってますでしょ。

そうなんです。

今、その状況において、
どう考えても **impossible** な **mission** だけどもね・・・
という含みがある訳ですね。

これが **impossible mission** との違いです。

(今日の音楽 — 「Mission Impossible」)

Mission Impossible というと、
トム・クルーズのあの映画を思い出される方と、
1960年代の、アメリカ CBS テレビのドラマを思い出される方と、
二世帯、あるかもしれませんね。

あの、映画、ドラマで、
オープニングにナレーション流れますでしょ。
「なお、このテープは自動的に消滅する」

あれ、原文はですね、
This tape will self-destruct in five seconds.
っていうんですね。

「このテープは、5秒以内に消滅する」

原文では 5秒って言っているんですけど、
「5秒」と訳さないで

「テープは自動的に消滅する」と訳したのは、
なかなか上手い訳だな～ と思うんですけどね。

という訳で、

Mission Impossible から

もうちょっとお話を続けさせていただくと、

国連の事務総長のこと、

secretary general

と、こう言いますでしょ。

あれ、なんで

general secretary

と言わないだろう？ と、

お感じになったこと、ないですか。

そうなんですよ、

ラテン語系の言葉、特にフランス語などは、

ほとんどの形容詞を、名詞の後ろに置きますが、

そういう言葉の影響を受けた表現というのは、

secretary general のように

形容詞が後ろにくるケースが多いんです。

他にも

a palace grand というと

「壮大な宮殿」「グランドパレス」なんですよ。

もうひとつ、

blood royal.

語順としては **royal** な **blood** なんですけど、これも、

blood royal と言って「王族」という意味。

他に、

court martial

なんかもそうですね。

「軍法会議」

martial な **court** なんですけど、

court martial という風に言います。

これも、やはり、

フランス語の影響、まあ、

ラテン語系の影響があるのかなと思います。

ホテルなども、まあ、

日本だと語順を変えたりしてるケースがありますけど、

例えば、アメリカなんかですと、

the Hotel Intercontinental

という風にネットなどで掲示されているのは、

intercontinental が後ろに来てますし、

英国のケースでも、

the Royal Hotel とは言わずに、

the Hotel Royal

という風に、後ろから来たりするケースがあります。

まあ、そんなところに、独特の、

英語以外の言葉の影響が見受けられると思います。

以上、「ワンポイント・イングリッシュ」でした。

■ 「～から始まる」= start from と言える時、言えない時。

さて。

自分もそうだったなーと、思うんですけど、
中学校時代ぐらい、
英語が非常に新鮮で、見るもの聞くもの目新しく、
まあ今は、小学校時代からやっている子も多いでしょうからアレですけど、
そういう時に、
極めて素朴な疑問がポッと浮かぶこと、あると思うんですよね。

で、そういう素朴な疑問って、まあ、
時として深い真理を含んでいるだろうと思います。

中学生ぐらいの英語だからと言って、軽々に扱うと、
その子が将来、大の英語嫌いになる可能性があります。

今日は、ちょっと一緒にお考え頂こうと思うんですけども。

中学生から「英語教えてくれる？」

「おう、いいよ」

例えばね、

「～から始まる」って言う意味で、
start from って言ってもいいの？

こういう質問がきたとしましょう。

「～から始まる」あるいは「～から始める」
このケースで **start from** と言えるかどうか。

皆さんでしたら、なんてお答えになります？

これこそまさに、深いところをついてくる良い質問ですね。

これ、答えはイエスでありノーなんですね。

つまり、これは、日本語の解釈からはじめないといけないんです。

理屈っぽい話で恐縮ですけど、

そもそも「始まる」「始める」というのは、

「動き」をイメージする「始まる」と、

「～の始まりである」という意味での「始まる」とがありますよね。

つまり、動作と状態の両方の意味を持っています。

ですから、

「どこそこから始まる」

例えば、「出発する」なんていう意味ですね。

こういう時、つまり「場所」の **start** をいう時には

from は使えるんです。

ところが、「時」の **start** とでも言いましょうか、

開始時を表す時の **start** には、**from** は使えません。

具体的に言いますと、例えば授業で

「はいみんな教科書開いて。10 ページから始めるよ」って言うとき。

これは「場所」の **start** ですから、

Let't start from page 10.

この場合は、言えるんですね。

ところが、

「今夜のコンサートは7時から始まります」なんていう場合には、

A tonight concert starts at seven.

なんです。

この場合、 **start from seven** とは言えないのです。

これは何故かという、「時」の **start** だからです。

あの、何気なく使っている「始まる」「始める」ですけど、
日本語の方を分析して、その意味の違いを分けないと、
この理解が出来ないと思うんですよね。

「日本では学校は4月から始まる」
と、こう言いますでしょ。

そうなんです。この場合も
start from April とは言わないんですね。
start in April という風に使います。

細かい話になりますが、
「開始時刻は7時からです」という日本語、間違ってますでしょ。

お分かりになりますか。
開始時刻は「点」ですから、
その点から開始時刻はず〜っと続くことは、あり得ないですよ。

「開始時刻は7時です」
でないと、まずいわけです。

もし「から」をどうしても付けたければ、
「講演時間は7時からです」かね。
そんな風に言葉を変えることしか出来ません。

で、先の中学生の質問。

「～から始まる」って言う意味で **start from** って言ってもいいの？

その答えとして

「イエスともノーとも両方言える」っていう言い方をすると、
だいたい中学生ぐらいの人は、
何かややこしい話になりそうだからもういい！ って、なると思うんです。

結局ここら辺で、ちょっと我慢してずっと食いつくっていくと、
こう、「言葉の面白み」の中へ入っていけると思うのですけどね。

(今日の音楽 – Ella Fitzgerald 「I Can't Get Started」)

この人の声は、ワンフレーズ聴くとすぐ分かりますよね。
エラ・フィッツジェラルドで、「I Can't Get Started」
日本の邦題は「言い出しかねて」という、
また上手い訳が付けられています。

さて、「start」と言う言葉で「始まった」、今日のワンポイント。
続いて、こんな英語を2つ比べてみましょうか。

Let's start from this point.

Let's start with this point.

これ、2つとも成り立つんです。

訳すとすれば、
このポイントから始めよう
このポイントで始めよう

ですよ。

Let's start from this point.

は、この区切りの点から始めよう、ということです。

Let's start with this point.

は、この論点 (this point) を最初に取り上げよう、という意味です。

含みが違います。

あの、ずーっとお話ししていますように、
前置詞というのは、それ自体に意味があります。

さて。

start という言葉で同時に思い出されるのが **begin** だと思っんですけど、
begin という言葉には基本的に **from** を使いません。

あの、

begin には「動きがない」んですね。
出発という動きを表す意味がないので、
動きのその起点を表す **from** が後に続かないんです。
要するに、相性が悪いんですね。

ですから、先ほどの

「10 ページから始めましょう」なんていう場合、
begin や **start** を使って、
また、前置詞をくっつけることで、
微妙なニュアンスの違いが出てきます。

例えば、

Let's start from page 10.

これには、

「10 ページ目から始まって、11 ページ目、12 ページ目と進むよ～」
という含みがあります。

ところが

Let's begin at page 10.

これは、10 ページ目を始める場所として言っただけ、なんです。

で、

Let's begin with page 10.

これはもう「10 ページ目をちゃんとやったら次に行こうね」
みたいな含みがあるんですね、これ（笑）

ですから、どの文章も成り立つんですけど、
それは日本語でも同じことで、
ちょっとした言葉の言い回しによって、
その話している人の頭の中が、透けて見えるわけです。

だから言葉は、面白いとも言えましょうし、
だから嫌いなんだ！という向きもあるかもしれません。

以上、「ワンポイント・イングリッシュ」でした。

■ I'm loving you. が正しいわけ。

夏休み期間中は、
夏休みの英語の宿題に四苦八苦する中高生のためにお届けしている
「ワンポイント・イングリッシュ」

こうして、中学高校時代の
基礎的な英語を改めて見直してみると、
「あ、なるほどね」と
気づかされることって、いくつかありますよね。

先日、「進行形」っていうのをやりましたでしょ。

例えば、

I know him.

っていう文章は成立しますが、

I am knowing him.

って、変ですよ。

耳で聞いて違和感がありますから、

皆さんお気づきかと思えますけど、

「変」です。

で、これは、英語としても変なんです。

もう一つの例でいうと、

「丘の上に教会がある」

The church is standing on the hill.

これって、ちょっと変なんです。

The church stands on the hill.

こうでないといけません。

これ、なぜこうなるかというと、
「進行形は、進行状態を停止できる」
という前提があるんです。

お分かりになりますか？

つまり、
教会が丘の上に建っているのは、
建ってたり建ってなかったりするように
取り換えられませんでしょ(笑)

常に建っているわけですから、
is standing にはなれないんです。

I'm knowing him.

こちらも、
まあ、場合によっては、
「彼なんか、もう知らないわ！」ということもあるでしょうが、
今この瞬間から、
「あれ？ あの人、誰だったっけ？」
とはなれない訳です。

ですから、

I'm knowing him.

というような言い方は、一般的にはしないんですね。

で、

「進行形」というものがあって、
「動詞に **ing** をつけるんだよ」と教わって、

「ああ、なるほどな」と思って。

ところが、

I'm knowing him.

みたいな形はできないんだよ、

というように、こう教わってきますでしょ。

どんどんどん、あの、深みにはまる、

・・・って言ったら言葉が違いますね（笑）

どんどんどん、こう、進化していきますよね。

これがまた、

言葉の面白いところなんですけど。

I'm loving you.

これは、言うんです。

言わなさそうなんですけど、

I'm loving you.

は、言うんですね。

これは、なぜかというと、

「止められるけれども、止める気はまったくない程、君が好き」

という意味で、

ひっくり返して強調している。

こういうところ、

言葉の面白いところだなあ、と思うんです。

あの、

学生時代に、よく、難しい言葉で、

「動作動詞」と「状態動詞」

なんていう言い方を教わります。

これで英語嫌いになる方も多いでしょうけど。

例えば、

「パジャマを着る」と

「パジャマを着ている」

この二つ、違いますでしょ。

日本語でも、これは使い分けてますよね。

「メガネをかける」というときも、はい、
wear を使います。

英語では「メガネを着る」と言います。

I wear glasses now.

これは、

I am wearing glasses now.

とも言えるんです。

さて、どう違うでしょう？

I wear glasses now.

I am wearing glasses now.

それぞれで、ニュアンスが違います。

I wear glasses now.

「今はメガネをかけています」

つまり、

「昔はメガネをかけてなかったんですけども、

最近老眼が進んできて、メガネをかけるようになりました」

というような意味で、

I wear glasses now.

は、言うんです。

ところが、

I am wearing glasses now.

こちらは、

「今だけメガネをかけているんです」

という意味です。

「一時的にかけている」という意味です。

そういう差があります。

他の例を見ましょうか。

nod って言いますよね。

「頷く」です。

例えば、

She nodded.

She was nodding.

身振りが浮かびますか？

はい。

She nodded.

「彼女は、一回頷いた」です。

She was nodding.

こちらは「何度も頷いた」です。

(今日の音楽 – Minnie Riperton 「Lovin' You」)

ミニー・リパートンで「Lovin' You」を
お聴きいただきました。

この歌の歌いだしは、
Lovin' you is easy cause you're beautiful.
Makin' love with you is all I wanna do.

ま、なんとあけすけな(笑)

鳥の声なんかが聞こえますから、
あの、もっとほのぼのとした曲かな、と思ったら、
そんなストレート直球ど真ん中の歌詞だとは
思いませんでした。

さて。
loving you みたいに、
「何々**ing** 何々」っていう形、ありますでしょ。

例えば、
flying birds みたいな言い方。
ありますよね。

この **flying** の位置を後ろにすることもできますね。
birds flying とすることができます。

例えば、

I took pictures of flying birds.

I took pictures of birds flying.

これ、意味が違います。

flying birds っていうのは、

日本語でいうところの「飛ぶ鳥」です。

つまり、

泳ぐ鳥ではなくて、飛ぶ鳥。

そういう風に分類しています。

で、

「飛ぶ鳥、後を濁さず」というと、

言葉として綺麗ですけど、

「飛んでる鳥、後を濁さず」っていうと、

日本語になりませんね。

同じことで、

「飛ぶ鳥」という時には **flying birds**

反対に

birds flying っていうのは、

「飛んでいる鳥」です。

なので、先程の例文を見ると、

I took pictures of flying birds.

「飛ぶ鳥の写真を撮った」

I took pictures of birds flying.

「飛んでる鳥の写真を撮った」

これは他でもそうで、

例えば、

crying children っていうと、

いわゆる「泣き虫」のこと。

children crying っていうと、

「泣いている子供達」となります。

これは、その例文で覚えるのもよいですし、

名詞の前につくと「一般例」、

名詞の後ろにつくと「具体例」

という風に区別するのも

ひとつの手かな、と思います。

以上、「ワンポイント・イングリッシュ」でした。

■ 「愛想がよい」をめぐる表現

さて、また新たな「ワンポイント・イングリッシュ」をお届けしようと思うんですけども。

「言葉は言葉のみならず」という訳で、
社会の中で使われている言葉は、
大きくとらえてもそうですし、
男女間でもそうですけれど、

同じ言葉を使っているのだけれども、その含みが違う。

こういうことって、常にあります。

例えば、二人の人間が
「カッコイイことをやろう」って言って、
「そうだそうだ～」と言って合意したように見えて、
それぞれがプランを練って来たら
全然違うものだった！
なんてこと、ありますよね。

つまり、それは
「カッコイイ」の定義が違う訳です。

これが、英語と日本語になると、
ちょっと笑うに笑えないようなシチュエーションも
あるかもしれませんよね。

言葉って、基本的に、色がついてますでしょ。

ネガティブな色、ポジティブな色、

また、中立的な言葉。

いろいろありますよね。

まあ、それを

「濃度」という風に考えてもよいと思うんですけど。

例えば、日本語で、

「ああ言えばこう言う」

「あの人は本当に、ああ言えばこう言うばかりで～」

なんて言いますでしょ。

この言葉は、ほぼ100%、否定的な含みですよ。

「ああ言えばこう言う、立派な人」

とは、あんまり言わないと思うんですね。

で、この

「ああ言えばこう言う」

これを、英語では、なんて言うか。

もうこれは、そのまま訳すしかないんですね。

私の手元の和英辞典を引きますとね。

Whatever you say, he will say the opposite.

って、出てくるんです。

「あなたが何を言おうとも、彼は反対を言う」

まあ、この場合

opposite っていう単語が出てきますが、

反対のことっていう意味が出て来ますんで、
「対抗している」ということです。

ただ、この訳だと
「ああ言えばこう言う」というニュアンスが出ませんよね。

これ、一方向なんです。
「Aと言った事に対して not A」と言い返す」
ということしか、訳しきれていません。

で、こんな例をあげるまでもなく、
言葉の中には「含み」があります。

で、今日はその1回目ですので、
「愛想（あいそう）」という言葉を見
てみようと思うんです。

「あいそう」と言ったり、
それを略して「あいそ」と言ったりしますね。

「愛想がよい」「愛想をつかす」「愛想笑い」
なんて言いますでしょ。

で、
「愛想がよい」を英語で訳そうとすると、
皆さんでしたら、どんな単語が浮かびます？

「あの人、愛想がよい人よね」

あの、
どなたでもご存知の単語としては、

friendly が出てくるだろうと思います。

あるいは

sociable という単語。

「社交的な」

で、ちょっと馴染みがない単語ですけども、

affable という単語があるんです。

これあの、

「気楽に話せる」というような意味なんですね。

あるいは

これまた、ちょっと聞かない単語かもしれませんが、

amiable という単語があって、これも、

「気だてのよい」とか「他人を喜ばせようとする」

というような含みです。

もうひとつ、**genial**.

「にこにこしてる」という意味なんです。

「朗らかな」くらいなんですね。

amiable

genial

「性格的にのんびりしている」

「ピリピリした所がない」

あるいは、

「冗談をよく言う」

「偉ぶらない」

みたいな含みがあります。

ただ、どう訳しても、
やはり日本語で言うところの「愛想がよい」と、
英語のこれらの単語は、
やっぱりこう、肉薄はするものの、ピッタリした所がない。

ここら辺の難しさを、あの、
しばらく「ワンポイント・イングリッシュ」のテーマにしたいと思います。

では、一曲挟んで、今度は、
「愛想をつかす」をやってみましょう。

(今日の音楽 - TOTO 「Mr. Friendly」)

お届けした曲は TOTO で「Mr. Friendly」でした。

これ、タイトルは「Mr. Friendly」なんですけど、
歌っている内容は、結構シビアでしてね。

「この、お調子者め」
みたいな含みのある歌詞です。

あの、
「愛想がよい」「無愛想だ」
この感覚って、
friendly / unfriendly のみならず・・・

こんなご経験、ないですかね、

日本のデパートって本当に至れり尽くせりですよ。

で、もちろん、「愛想がよい」

もう本当に、かゆいところに手が届くっていう感じがありますけど。

ところが、海外へ行って、英語圏のデパートへ行くと、

接客基準っていうのは、ひよっとすると、

日本の接客基準に慣れた感覚からすると、

「ややぶっきらぼう」なイメージを持つ方が

多いんじゃないか、と思うんですね。

ちょっと冷淡な感じがするかもしれません。

で、これはひっくり返して考えると、あの、

外国人の方の中には、全てではないですけど、

中には、

日本人の店員の方の中の愛想のよさを、

「媚びをうっている」

という風におっしゃる方もいます。

これはやっぱり、文化の差としか言いようないですね。

今度は、

「愛想を尽かす」です。

例えば、

「彼女は酔っぱらいの亭主に愛想を尽かした」

という例文を考えてみました。

いえ、特に含みはないんですよ（笑）

「愛想を尽かす」

この日本語も独特なものがありますけど、
やっぱりこう、妙な誤解がないように
「愛が冷めた」という言い方がよいだらうと思うんですね。

She lost all her love towards her drunk husband.

みたいな英語がよいだらうと思いました。

「我慢がもう出来ない」と考えれば、
run out of patience
とも言えますでしょうし、

get sick of it
と言っても「もうやだ!」という意味ですけど、

日本語の「愛想がよい」「愛想を尽かす」というこの含みは、
やっぱり訳しきれない感じが残ります。

以上、「ワンポイント・イングリッシュ」でした。

■ 「甘え」= amae! ホント?

さて、このところ、
英語に訳しにくい日本語をあえて選んできて、
何とかして英語にしようじゃないかという
この「ワンポイント・イングリッシュ」なんですけれども。

今日はですね、
最大の難関といってもよいような日本語なんですけど。
「甘え」
これを英語にしてみましよう。

あの、もし今、お手元に和英辞典がありましたら、
ちょっと「甘え」という単語を引いてみられると、
多分、驚かれると思うんです。

私の持っている和英辞典で引いてみますとね、
「甘え」って引くと
amae と出てくるんです。

amae って書いてありましてね、

**a tendency to depend too easily
on somebody who is close to and older than one,
such as one's parent, teacher, etc.**

こう書いてあります。

非常に、英語にしにくい単語なんですね、これ。

「他者に頼りすぎる傾向」という風に説明をしていますが、

ただ、これは、
それをどう見るか、というところが
その上にまた、かぶってくるものですから、
さらに難しいんですね。

もうずいぶん古い話で、70年代だったと思いますけど
土居健郎さんという方が、
「甘えの構造」という本をお書きになりました。

日系のアメリカ人と英語でお話ししていた時に、
その日系のアメリカの方が、
「甘え」という部分だけ、日本語で話された。

「どうして、その部分だけ英語にしないんですか」と尋ねたら、
「それは英語にはない」とおっしゃった。

こういうエピソードを書いて、一躍有名になった訳です。

で、考えてみると、
我々の社会生活では、こう
「どうぞよろしくお願いします」と言い、
「いえいえ、こちらこそ、よろしくお願いします」と言って、

お互いに、こう
相互依存を当然と考える、社会的な構造がありますよね。

それは、
良いとか悪いとかという事よりも、
そういう仕組みになっていますでしょ。

「私、すごいですから、私に頼ってください」

と言うと、たちの悪いジョークにしかならないのと同じで。

反対に、

独立心ということを非常に重視する社会。

あるいは、

他者への依存心というものを、幼さと見る社会。

こういう社会が、またあります。

そう考えると、この、

「甘え」という言葉は、

よほど注意して訳しないと、危険です。

音として英語になったり、文法上英語になりはしても、

伝えたいニュアンスが伝わらないどころか、

逆転して伝わってしまうリスクさえあります。

で、もう一つ、

「甘やかす」という言葉。

これも和英辞典を引きますと、一番最初に

spoil っていう言葉が出てくると思います。

これもあの、

一部は訳せているものの、

全体は訳しきれしていない、

ひとつの有名な例だと思えます。

spoil の意味は、

「駄目にする」です。

ですから、例えば、
買って来たレタスを冷蔵庫に入れ忘れて、
台所に2～3日置いておいたら、駄目になっちゃた。

そういう時に、
spoil を使います。

だから、
「いやもう、彼女が甘えてくるから、参ったよ～」
というような場面で、
spoil を使うのは、変ですよ。

お分かりの通りです。

さて、
「甘え」の方に戻って、
「彼女には甘えがある」と、こう言いたい場合。

これは、うーん、
「他者に依存している傾向がある」と考えると、

She is always dependent.

こうなるんですけども、
「それが適正基準を超えているから、甘えがある」
という含みになりますから、
ここに too という言葉が要ります。

She is always too dependent on others.

あるいは、

「甘えがある」を、
依存的だという意味と同時に、
「他人の行為を得ようとしている」とすると、
「探し求めている」ですから **seeking** を使って、

She is always seeking favors from other people.

まあ、一文一文、
「甘え」という含みをじっくり吟味しないと、
英語に気楽に訳してしまうと、
ひどい誤解が生じる可能性があります。

(今日の音楽 — Julie London 「Never On Sunday」)

ジュリー・ロンドンで「Never On Sunday」をお聴きいただきました。

今日は「甘える」という、
この、まあ、なんとも英語に訳しにくい日本語を
訳してみようという訳なんですけども。

よく使う言葉で、
「甘えるんじゃない」「甘えるな」
こう言いますでしょ。

この「甘えるな」

これはまた、一回バラバラにしてみないと、
英語になりませんね。

「甘えるな」の意味を
「依頼心を持ちすぎるな」、つまり、
「独立心をもっと持ちなさい」

こういう意味なら、

Learn to be more independent.

これが「甘えるんじゃない」になりますでしょう。

あるいは、
「寛大な処置がなされるであろうと期待しても駄目だよ」
という意味で、
「甘えるんじゃない」 となると、

Don't expect soft treatment.

になるだろうと思います。

よく子供がお母さんに甘えて、こう、
「ねえねえ、お母さん～」と言って、こう、
スカートを引っ張りますでしょう。

で、スカートの陰に隠れたりして、お母さんに
「はい、こんにちは、は？」なんて言われても、あの、
挨拶がなかなか思うに任せないようなケース。

「子供が甘えてお母さんのスカートを引っ張った」
みたいな場面。

あの、「すがりつく」という意味で
cling っていう言葉があります。

cling to ～

ですから、

The child clung to his mother's skirt.

でも、英語になります。

しかし、この **cling to** は
「甘え」という含みだけではなくて、
「恥ずかしがっている」とか「怖がっている」
という含みもありますので、

いかにも子供が母親に、こう、
べたべたして甘えた・・・というニュアンスは、
この一文だけでは無理ですね。

もう一つぐらいやりましょうか。

よく、子供が、注意を引くために、
「痛くないんだけど、甘えて泣く」
なんていうこと、ありますよね。

で、親御さんは、それを承知で、
「痛い痛い、go away！」
って言いますでしょ。

例えば、
「あの子は痛くもないのに、甘えて泣いているだけなんだよ」
なんていう場合。

これまた、英語に訳すと難しいんですけど、

「甘えているだけ」を、つまり
「注意を引くためだけに」と考えれば、

The child is screaming 「叫んでいる」
in pretended pain 「そんなふりをしている痛みで」

何故かという、 **just to get attention**

The child is screaming in pretended pain just to get attention.

「痛くもないのに甘えて泣いてるだけなのよ、あの子」

う～ん・・・ かなりこう、
翻訳したな、訳したな、という感じが残ってしまいますけども、
まあこれぐらい、
「甘える」「甘やかす」という種類の言葉は
英語に訳すときには、注意が必要です。

以上、「ワンポイント・イングリッシュ」でした。

■ 「白い象」を賜ったら、たしかに・・・

さて、チョチョイと簡単には英語にならないような日本語を、
あえてピックアップして、
うんうん唸りながら英語を考え出そうという、
この「ワンポイント・イングリッシュ」なんですけども。

日本語でも英語でも、
「身体の一部を使った慣用句的な表現」
いろいろ、ありますでしょ。

で、これ、面白いことに、私、いつも感じるんですけど・・・
「ああ、人類は同じだ」って。

例えば、
顔なら顔という言葉を使ったいろんな慣用句って
日本語にもありますし、英語にもあるんですね。

日本語で考えてみると
「顔」にまつわる表現って
もうほんとに、たくさんありますでしょ。

顔が売れる、顔が利く、顔がたつ、顔が広い、顔に書いてある、
顔に泥を塗る、顔から火が出る、顔を合わせる、顔を揃える、
顔を出す、顔を立てる、顔を潰す、顔を汚す、顔をしかめる・・・ですか。

その事実としての行動ではなくて、
そこから、なにかこう、
比喩的な意味を持たせる。

まず、これはご存じの方も多いと思いますけど、

日本語でいうところの「顔」っていった場合、
皆さん、どの部分を指さします？

はい、あの、
人間の顔を正面から見た時、
耳より前の部分のことを、言いますよね。

要するに、おでこからあごまでの、
で、耳より前の部分、前面の部分を
「顔」と呼びますでしょ。

で、例えば、
「危ないですから、窓から顔を出さないでください」
という場合。

そうなんですよね。

日本語では「顔」なんですけども、
これは英語にした場合は **head** になるんです。

で、英語でいうところの **head** っていうのは、厳密に言うと、
「**neck** から上全部」を指すものですから、
日本語でいう「首」に当たる部分も **head** であり、
あるいは
「顔」という表現の時も **head** を使うことがあります。

ですから、先ほどの、
「窓から顔を出さないでください」

Don't put your head out of the window.

これを **face** にすると、
そんな難しいことはそもそもできない！
ということになるわけです。

あるいは、
イエスの意味で、「承諾」っていう意味で、
「首を縦に振る」っていいますでしょ。

で、日本語で「首」っていうと、
すぐ **neck** がくるんですけど、
これも、
「首を縦に振る」ときの「首」は **head** なんですね。

nod his head

「頭をうなずかせる」ということですね。
これで、日本語でいうところの
「首を縦に振る」になります。

また、今度は「拒絶」の意味で
「首を横に振る」は、
shake his head になるんです。

こんな風に、
一言で「顔」っていてもいろいろあるんですけども。

さらに、
こういう表現があるのは、
日本独特の、恥の文化なんだろうかね、

「合わせる顔がない」っていう言い方、ありますよね。

「申し訳なくって、もう君に合わせる顔がないよ」
なんて言ったりします。

さて、

「君に合わせる顔がない」
皆さんでしたら、どう訳されますか。

これ、結構、難しいですよ。

まず、謝りましょうか。

I'm very sorry.

申し訳なくて、
どうやって君と対峙したらよいか分からない。
向き合ったら良いか分からない。

そう考えれば

I'm very sorry and I don't know how I can face you.

こう言えば、まさに「合わせる顔がない」です。

あるいは、

「君の顔を正面きって見ることができないほどに恥ずかしい」

恥ずかしいという意味は、その、

「恥を感じている」という意味ですね。

そう考えると

I'm ashamed to look you in the face.

これぐらいになるかな～と思うんですね。

で、例えば

「世間様に合わせる顔がない」

ねえ、一瞬でもこういうことが頭をよぎれば、

そんなねえ、

口に入るかもしれないお米を・・・

って思ってしまうけど。

「世間様に合わせる顔がない」

これはあの、英語では、

「大衆の面前で顔を上げることができない」という、

要するに「うつむかざるを得ない」

これで、「世間に合わせる顔がない」になりえると思います。

How can I hold my head up in public?

こんな表現になるだろうと思います。

(今日の音楽)

あの、何人であっても何語であっても、

人間の言語センスっていうのは面白いもので、

「顔」という物理的なものから派生して、
想像力を働かせて、こう、
いろんな比喩的に使うという知恵は、たいしたものですね。

同じようなことは、例えば、
字面どおりの言葉ではなく、
「言葉は感謝だけれども、実はそうじゃない」
というようなこと、あるいは
「言葉では怒っているけれども、大変好きだ」というような、その、
「相反する表現」って、これもまた、何語にもあります。

最近、あの、
「ありがとう、オリゴ糖」って言う人がいますけど（笑）、
「ありがとう」にしても、
それが本当の、単純な感謝ではないというケースがあります。

「ありがた迷惑」って言いますでしょ、よく。

よかれと思ってしたことなのに、
それが先方にはありがた迷惑になってしまう。
まあ、した方としてはツライところもありますけどね。

「ありがた迷惑」って英語でなんて言うかっていうと、
まずひとつ、もし言うとしたら、
これもう、訳すんですね。

例えば、
more annoyance than consolation

つまり

「慰められるよりも不快にさせられる」
みたいな風に訳するのが一つの方法なんです。

けれど、これもまた面白いことで、やっぱり、
「ありがた迷惑」だと思ふ人間の感覚ってのがあって、
そこに、当然のように、言葉が与えられている。

日本語の場合もそうですよね、
「ありがたいけど迷惑だ」と言うことですよ。

英語では、ご存じの方も多と思いますが、
white elephant って言うんですね。

まさに「白いゾウ」です。

もともとはこれ、インド周辺で、
神聖なゾウとして崇められる、白いゾウのことです。
ただ、この白いゾウ。
費用や手が掛かるばかりで得になりません。

そこから転じて、
「厄介者」「もてあましもの」「無用の長物」「つまらないもの」

これはあの、
かつて王様が気に入らない自分の部下にですね、
白いゾウを与えて、
「これは神聖なゾウだから、よろしくなっ」と言って渡して、
そのゾウをもらった部下が大変困ったという、
そういう古事からとったものです。

white elephant と言います。

あの、

「がらくた市」なんて言い方をするとときに

white elephant sale

と言ったりすることもあります。

以上、「ワンポイント・イングリッシュ」でした。

● おわりに

最後まで読んでいただいて、ありがとうございました。
なにかしら、あなたのお役に立つことが転がっていたとしたら、
大変うれしく思います。

ご意見・ご感想などもお知らせいただけたら、嬉しいです。

さて、この無料レポートの内容は、すべて
私の発行するメールマガジンのバックナンバーです。

珠玉の「ワンポイント・イングリッシュ」－京都から
<http://www.mag2.com/m/0000269406.html>

このレポートを「面白いな！」と思って下さったら、
メールマガジンも「面白い」と思います。(笑)
無料で読んでいただけますし、いつでも自由に解除できますので、
ぜひ、お読み下されば幸いです。

あなたとの出会いに、感謝いたします。
願わくば、メールマガジンで再会できますことを！

えいいち
the_lake_poets@yahoo.co.jp